

研究所主催のセミナー・シンポジウム・公開講座など

第9回天然薬物研究方法論アカデミー・呉羽山シンポジウム

日 時 平成15年7月26日(土)～28日(月)

会 場 呉羽ハイツ

主 催 天然薬物研究方法論アカデミー

協 賛 富山医科薬科大学・和漢薬研究所, 21世紀 COE 富山推進委員会

参加費 30,000円

本シンポジウムの趣旨は天然薬物研究の方法論を議論する場として、第1回から第6回まで昭和薬科大学の白樺校舎を利用して行われた(白樺湖シンポジウム)が、白樺校舎の閉鎖とともに各地で開催されるようになった経緯がある。本年度は富山の呉羽山に会場を設けた関係で呉羽山シンポジウムと呼ぶことにした。参加者は84名で、宿泊者は57名であった。今回は特に、天然薬物研究方法論に関する発表の他、植物エストロゲンの問題、プロテオーム研究などについて重点的に取り上げ、関連する研究者に講演を依頼した。また、ポスター発表も9題が行われた。また、講演後は宿舎内で夜遅くまで、歓談の機会が持たれた。講演内容を以下に記す。

1. 内分泌かく乱と調節のはざま

1) 内分泌かく乱物質研究の現状と課題

西原 力 大阪大学大学院 薬学研究科

2) 生薬、食品に含まれる エストロジェン および 抗エストロジェン作用物質—主として腸内細菌により活性を発現するリグナン類について—

服部征雄 富山医科薬科大学 和漢薬研究所

3) エストロゲン様作用を有する植物成分について

秋山敏行 高知県立牧野植物園

4) 植物エストロジェンの作用機序と健康影響評価

香山不二雄 自治医科大学 医学部

2. 漢方治療の実際と歴史的考察

5) 漢方治療と保険診療の歴史・伝統医学研究会

秋葉哲生 あきば病院 医師

3. 新しい薬物評価法の開発とその応用

6) 痒みの動物モデルと薬理学的的方法論

倉石 泰 富山医科薬科大学 薬学部

4. 漢方治療の実際と臨床評価

7) 特発性血小板減少性紫斑病の漢方治療—ステロイド療法の功罪—

小菅孝明 医療法人 養光会 ベイサイドクリニック

8) 漢方と EBM

喜多敏明 千葉大学環境健康都市園芸フィールド科学教育研究センター

9) EBM につなげるための試み—クラスター解析の応用—

中田英之 自衛隊仙台病院 産婦人科 医師

5. ポストゲノム時代の天然薬物研究へのさきがけ

10) プロテインチップによるクリニカルプロテオミクス

斎藤賢治 サイファージェン・バイオシステムズ株式会社

11) プロテオーム研究はどこまで老化に迫れるか

戸田年総 東京都老人総合研究所 主任研究員

5. 海外招待講演

12) Ginseng Saponin—Metabolizing Enzymes of Human Intestinal Bacteria

Dong - Hyun Kim 慶熙大学薬学校

(文責 服部征雄)